
極東の撃竜槍

龍帝元祖

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

極東の撃竜槍

【コード】

N3962S

【作者名】

龍帝元祖

【あらすじ】

この世界に幾多も存在する伝説の一つ。 黒龍伝説。

この物語は黒龍伝説から200年後の物語。

黒龍伝説、第六部。 『極東の撃竜槍』

極東の撃竜槍（前書き）

この大陸は遙か昔、一つの国家が支配していた。

その国名からシュレイド地方と言われている。

ある出来事により、国家は東と西に分断した。

その東の国、東シュレイド共和国の首都リーヴェル、首都から更に東に行くと外壁に面した街がある。

この最東端には砦があり、撃竜槍などの巨大モンスターの侵入を防ぐための設備がある。

この更に東に国境はあれど、街はない。

凶暴なモンスター達の世界となっている。

一般人はこの砦より東に行く事は禁じられており、行けたとしても命の保証はない。

極東の撃竜槍

東の空は灰色に染まり、時折雷を発している。

ソレは徐々に近づいていた。

「ウーム……、この空気は一嵐来そうだな。」

男は一人言を呟きながら腕を組んでいる。

肩から手の先までと、膝から足の先までを黄金の鎧で身を包み。

胴と腰には赤い鱗の様な防具で胸元には大きくギルドの紋章がある。

頭は何も身につけておらず、左耳にピアスを着けている。

その男が遠くの嵐を眺めていると、後ろから同じ様な格好の者が駆け寄って来た。

鋼色の左手には同じ色の兜を抱き、右手には何やら紙を持っている。

「エリゴル王子、大変です！」

などと叫び、膝を両手で付き、息を切らしている。

よほど急ぎの用らしい。

「そんなに慌ててどうした、それにここでは隊長と呼んでくれ。」
相変わらず嵐の方を眺めつつ、エリゴルはそう言った。

「すみません、隊長コレを読んで下さい。」

ん……、とエリゴルは右手を肩越しに差し出して来たので、急いで紙を手渡した。

「……ウゝム、嵐は嵐でも……、コイツときたか。」

エリゴルは走って来た男の方を振り向きつつさっきの紙を手渡した。

「ダレン副隊長、至急第一戦闘配備だ。俺は少し下に降りる。指揮は任せたぞ。」

「あまり無茶はしないで下さいよ。」

それだけを告げ、ダレンは来た道を急いで戻った。

「無茶はせんが、無理はしてみるもんだよ。」

エリゴルはニヤリと笑いながら、側の壁に立て掛けられている二本のランスを手にする。

規格品の七部程の長さのランス、撃竜槍【阿・咩】。

普通は盾と一对の武器であるランスだが。

「何事も挑戦だよ。」

古の時代に、ことういう使い方をする剣士がいたという。

手にしたランスを背中に掛けて、エリゴルは誓の下へと降りて行った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3962s/>

極東の撃竜槍

2011年10月8日22時07分発行